

## 平成30年度 第1回学校運営協議会 記録

### 1 日時・場所

平成30年7月14日(土) 10:30~12:45 応接室

### 2 出席者

学校運営協議会委員(6名)

NPO職員、大学院教授、地元中学校長、卒業生、元本校教員、保護者  
学校関係者(6名)

### 3 議事内容

(1) 会長あいさつ

(2) 委員・事務局紹介

(3) 学校運営協議会の実施要項等について

- ・ 会長及び副会長の決定。

(4) 学校経営計画

- ・ 学校経営計画等の資料に沿って、「めざす学校像」、「中期的目標」、「本年度の取組内容及び自己評価」等について (説明者: 准校長)

(5) 学校の現状と課題

- ・ 本年度の「在籍者数」及び「年間行事予定」、「平成31年度使用教科書選定」、学校設定科目「ベーシック教養」、「昨年度の特別指導」について (説明者: 教務主任)
- ・ 本年度の「生徒指導の現状」及び「懲戒指導のまとめ」、「部活動」、「生徒会行事」について (説明者: 生徒指導主事)
- ・ 本年度の「学校保健年間計画」及び「健康診断の現状」について (説明者: 生徒指導主事)
- ・ 昨年度の進路状況と今年度の進路希望状況について
  - ・ (説明者: 進路指導主事)
- ・ 「平成30年度選抜志願者数等」及び「中学校訪問」、「教職員研修の予定」について (説明者: 首席)
- ・ 法令の改正にともない変更した「学校いじめ防止基本方針」について (説明者: 教頭)

(6) 確認事項

- ・ 平成31年度使用教科書選定結果について意見はなかった。
- ・ 学校いじめ防止基本方針について意見はなかった。

4 協議「本校の現状と課題を踏まえた今後のあり方」

(1) P15「ベーシック教養」実施初年度の様子について

**委員**：不参加の理由として「さぼってしまった」が多いのはなぜか。

**事務局**：仕事の都合で間に合わない場合にも、「さぼってしまった」を選んでいる。  
また、17:45までに登校していてベーシックに出ない生徒もいるが、「早めに登校する生活習慣作り」という点では一定の効果をあげている。

(2) P31「志願者数等の推移」について

**委員**：編転入生の定着率が上昇したのはなぜか。

**事務局**：編転入の機会について以前は年度当初しか機会がなく、理由も「留年したから今の学校に居たくない。」というケースが大半であった。現在は機会が増え、学校を続けるために編転入が必要な生徒が来ているからではないかと考える。

また、不本意入学を減らすため、編転入審査を受ける際は必ず学校見学を行うこととしていることが一定の効果が出ていると考える。

**委員**：平成26年度から平成29年度まで減少を続けた志願者数が今年度増加したのは、中学校訪問の効果か。

**事務局**：志願者増加の理由の1つではあると考える。本校の特性を広く知ってもらうことを目的として今年度も昨年度並みの校数をまわる予定であるが、結果が楽しみでもある。

(3) P31「中学校訪問」について

**委員**：最近は多くの公立高校が中学校訪問をおこなっているが、転任間もない職員が訪れた場合に、中学校側の質問に対して十分に答えられない場合がある。

**事務局**：新着任者については、最初の1校を経験者と一緒に訪問することになっている。

**委員**：中学校では、夏季休業期間は出勤している教員が少なく、対応できないことがある。

**事務局**：昨年は夏季休業中に限定していたが、今年度は訪問期間を10月中旬までとした。

委員：訪問先の中学校はどのようにして決めているのか。

事務局：堺市内の中学校は、通学が困難で在校生・卒業生がいない1校を除いて、すべて訪問する。さらに河内長野市・大阪狭山市・泉大津市・高石市等、在校生または卒業生がいる学校と、大阪市内で南海高野線沿線の学校数校を訪問する。

(4) P24「SSWとのケース会議」「バイターンシップ」について

委員：「手帳を持っている生徒」は確認がとれるか。

事務局：今回のケースについては、本人・保護者側から申し出があったが、就職にあたって所持していることを伏せておきたがる場合が多い。本校は普通科のため、支援学校に比べると障がい者求人の情報が得にくい。また、障がい者求人で就職すると待遇面で差があることも理由の1つとなっている。

委員：中学校卒業後、進学せずに働いている人が学ぶ場所として定時制高校に期待している。「手帳を所持していることを伏せて就職しては離職」を繰り返して、苦勞している成人を支援することがあり、理解を得られる形での就労が重要だと思うので、さまざまな面で情報を共有していきたい。

委員：昨年度のバイターンシップはどうだったのか。

事務局：継続を前提としないアルバイト体験（賃金あり）という形は、雇用する側にメリットがない。受け入れ先が見つけにくいため、昨年度、実施の時期が大幅に遅れた。

委員：「体験」で終わらせるのか、継続できそうならする方がいいのか。

中小企業家同友会の職種体験（賃金なし）→USJなどの短期アルバイト→継続前提のアルバイト という段階を踏む形がとればいいのか。

(5) 相談室を中心とするサポート体制について

委員：発達障がいや精神面での不安を持つ生徒を支援し、人とつながる体験の場を作るという面で、とてもよく対応されていると感じている。ただ、「うまくいって当たり前」ではなく、「なぜ今うまくいっているのか」を考えておくことが必要ではないか。